別府大学大学院主催

書く/描く/画く
― 粘土板からiPadまで

日時 2025年 10月25日(土) 13:00（※受付開始 12:15）

会場 別府大学メディア教育・研究センター4F メディアホール
大分県別府市北石垣82

交通アクセス　キャンパスマップ

「読む」という行為は表面的には受動的な行為のように思われがちですが、昨年度の講演会・シンポジウムで示されたように実は能動的な行為でもありました。そこで今回は本質的に能動的な「かく」という行為について検討します。

人は古来よりさまざまな方法でさまざまなことを「かいて」きました。手紙、日記、家計簿から文学や業務文書、歴史まで、または絵画からプログラミングまで、その例は枚挙にいとまがありません。さらに自分の内にあるものを外に向けて発信・公開するという点では、近年のインターネットを見ればその盛況ぶりは一目瞭然です。ブログ、ウェブサイトは言うまでもなく、各種SNSなどもその一例です。こうした現象は人間の「表現への欲求」とでもいうべきものの現れと言えるでしょう。

本講演会・シンポジウムではそうした外へ向けて何かを「かく」ことの意味、または内面にあるものを表現することの意義についてさまざまな専門的視点から検討します。

Ⅰ　講演会（13:10～14:10）

アーカイブズの文字
ー実用的リテラシーと文学的リテラシーー

針谷　武志
（史学・文化財学専攻 教授）

昨年のシンポジウムでは識字率と実用的リテラシーに焦点をあてたが、さらに書字＝文字を書くための教育や筆記具、料紙のことについても述べたい。また文学的リテラシーまで話を広げて、文学を楽しむ人々にも触れてみたい。識字率では低位に現れた女性のリテラシー獲得への希求にも可能な限り接近してみたい。ここでのアーカイブズは公文書のみならずエゴ・ドキュメントも含むことになろう。

針谷　武志（はりがや たけし）略歴

1962年生まれ。東京の多摩地域育ち。学習院大学大学院文学研究科博士後期課程満了。2004年にアーキビスト養成課程担当として別府大学助教授就任。2012年より現職。別府大学大学院文学研究科長（2020-2021年度）。文学部長（2025年度-）。記録管理学会監事。認証アーキビスト。専門はアーカイブズ。アーカイブズ（永久保存記録）は古文書から現代文書やデジタル文書まで幅広く対象とするが、日本の江戸時代～近代の手書き資料を主な研究対象とする。共著『論集中近世の史料と方法』など、史料集編纂に『水野忠邦天保改革老中日記』など。

Ⅱ　シンポジウム（14:25～16:15）

内山　和也（日本語・日本文学専攻 教授）

書記言語と４つのカク

音声による口頭言語と区別して、文字を媒体とする言語は書記言語と呼ばれます。今回の報告では、主に日本語を例にしながら、書記言語がどのようなものであるのか（どのようなものでありうるのか）考えたいと思います。

上野　淳也（史学・文化財学専攻 教授）

金石文について

歴史資料としては、一般的に古文書を思い浮かべるであろう。考古学資料では「粘土版」・「木簡」など文字を記す媒体は多岐に渡る。昔の人は、より長い時間、後世に文字が残るように「金属」や「石」に文字を刻んだ。今回は、この「金石文」を取り上げる。

藤元　慎太郎（臨床心理学専攻 准教授）

「書く」こととカウンセリング

自分が他者に手紙を書き、次に他者の立場からその手紙に自ら返事を書くというロールレタリングを紹介いたします。自己カウンセリングの1つであるロールレタリングの体験をしながら、書くことの心理的意味について考えたいと思います。

大坪　素秋（食物栄養学専攻 教授）

ゲノムに刻まれた人類の歴史

古人骨に残されたゲノムのDNAを解析することにより、人類の進化と歴史についての理解が近年深まってきました。今回の報告では、DNAに書かれた遺伝情報を解析する技術の進歩とその可能性について解説します。

入場無料

お問い合わせ　食物栄養科学部 事務室　担当：植木
電話 0977-66-9630
FAX 0977-66-9631

別府大学　検索